

島根大学研究見本市

研究テーマ名

「小学校外国語活動に取り組む」——地域のニーズに合った実践と研究を目指して
Research and Practice into Foreign Language Activities in Elementary School

研究者紹介

大谷 みどり (教育学部・准教授)
Midori Otani (Associate Professor, Faculty of Education)

概要

小学校高学年で必修化された「外国語活動」について、小中学校の先生方との勉強会や研究調査等、外国語活動がより充実したものになるよう様々な形で関わっています。具体的には、2010年夏に県教委の先生方と「小学校外国語活動の会」を立ち上げ、自主勉強会を続けています。また「島根からの『小学校外国語活動実践ハンドブック』」(共著)や「島根からの『小学校外国語活動事例集』」を編集し、県下の全小学校に配布させて頂きました。外国語活動はまだ始まったばかりで、現場の先生方にも様々な戸惑いがありますが、これからも引き続き、地域のニーズにあった実践と研究を続けていきたいと思っています。

I have been helping the elementary school teachers who have suddenly had to start teaching Foreign Language Activities. In collaboration with consultants at the Shimane Board of Education, we started to hold seminars for teachers. I edited “The Practical Handbook on Elementary School Foreign Language Activities : From Shimane” and “Collections of Teaching Practices of Foreign Language Activities in Shimane”. Both of them were delivered to all of the elementary schools in Shimane.

Foreign Language Activities are relatively new in Japan. The teachers have been struggling and perplexed about how to teach. I would like to keep supporting their teaching as well as the children.

特色 研究成果 今後の展望

23年度から小学校で「活動」として「外国語活動」が必修化されました。周辺諸国では既に教科として導入されているところも少なくありませんが、いま日本の小学校では、外国語を通して、日本を含め多様な文化や言葉に気付き、外国語に慣れ親しみ、そして英語を使つてのやりとりを通して人との関わりの大切さを再認識すると共に、コミュニケーションへの積極的な関心・意欲・態度を育てることが求められています。外国語に触れることにより日本語のよさや特徴に気付き、また英語だから、日頃は聞けないような質問を通して友達の新たな一面を知ることが出来るようにもなります。

ただ、英語は教える筈ではなかった小学校の先生方が取り組まれるにあたり、教育学部英語教育に所属する教員の一人として、出来ることをお手伝いしています。具体的には、上述の自主勉強会「外国語活動の会」を開催し、県内で素晴らしい取り組みをしておられる先生方に実践発表をお願いし、毎回50名ほど参加して下さる先生方と意見・情報交換を続けています。また2011年3月には、外国語活動の基本を紹介した「島根からの『小学校外国語活動実践ハンドブック』」(共著)、翌年に島根の先生方の取り組みを紹介した「島根からの『小学校外国語活動事例集』」を編集しました。

外国語活動はまだ始まったばかりで、現場の先生方にも様々な戸惑いがありますが、子供達は英語に慣れ親しみ、積極的に英語でコミュニケーションをとるようになってきました。これからは引き続き、地域のニーズにあった実践と研究を続けていきたいと思っています。現場の先生方のニーズも是非お聞かせ下さい。島根や日本のよさを大切にしながら、世界を相手に活躍できる子供達を、皆さんと一緒に育てていきたいと願っています。



キーワード

小学校・外国語活動・英語教育

リンク